

委員会行政視察実施報告書

委員会名	総務常任委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎遠藤 吉正 ○小島 雄一 矢吹 哲哉 上野 利一郎 渡部 一樹 伊藤 弘明 佐原 正秀

1 本市の課題と視察の目的

本市では、「行政サービスに対する市民満足度や市政に対する意見を把握し、喜多方市総合計画の進行管理に役立てること」を目的として、毎年、行政サービスに対する満足度アンケート調査を実施している。

一方、近年、行政評価の指標として、重要度や満足度のほか、幸福度を取り入れる自治体が増えている。

秋田県仙北市では、「感情的で一瞬しか続かない短い幸せ（Happiness）ではなく、身体的・精神的・社会的に良好な状態を持続する長いスパンでの幸せ（Well-Being）を幸福度」と定義し、まちのあるべき姿として、目標を持ち、やりたいことのある人が多い町、やりたいことにチャレンジしている人が多い町などを目指して、特にその実現に向け積極的にDXを推進しており、市民の幸福度・施策満足度・施策重要度を指標として事業効果を調査している。それらの取組を視察し、住民の幸福度の向上に寄与するDXの内容及び本市における事業の評価・見直しはどうあるべきか、参考としたい。

2 実施概要

実施日時	視察先	秋田県仙北市
令和5年10月23日（月） 午後1時57分 ～午後3時43分	担当部局	仙北市 企画政策課
視察項目	DX推進による地域の経済発展と市民ウェルビーイング向上による「幸福度No.1のまち」の実現に向けた取組について	
報告内容	<u>1 取組の経過</u> 仙北市は2005年に角館町、田沢湖町、西木村が合併して誕生した。年間約500万人の観光客が訪れる観光都市であるが、広大な面積の8割は森林であり、また、毎年約500人ずつ人口が減っているのが現状である。全国的には、老年人口の増加が問題視されているが、仙北市では老年人口さえ	

も減少に転じる危機的な状況にある。このままでは仙北市が消滅してしまうという危機感もあり、若年層が魅力を感じるようなまちづくりを進めるためには、抜本的な産業構造の改革が必要であり、あらゆる可能性にチャレンジしようということが仙北市の基本姿勢となっている。

そこで、仙北市では 2015 年に国家戦略特区（地方創生近未来特区）に指定されたことを皮切りに、内閣府・経済産業省・国土交通省、その他の様々な省庁の事業に応募し、積極的に地域課題解決に向けて取り組んできた。

また、仙北市は幸福度全国ナンバーワンのまちを目指す方針を掲げており、そのあるべき姿として、目標を持ち、やりたいことのある人が多い町、やりたいことにチャレンジしている人が多い町などを目指している。そして、2023 年の 4 月には国の地域 D X 推進ラボ（「3 地域 D X 推進ラボについて」参照）として選定され、その取組を推進している。

2 地域 D X 推進ラボへ応募するに至った背景

幸福度ナンバーワンのまちの実現に向け、単なる技術や機器等の導入ではなく、制度や組織、行政プロセス、意識等の変革を目指す D X 推進のため、2022 年 3 月に仙北市 D X 推進計画を策定。

- ・ D X の推進による業務効率化や、生産性向上によって、少子高齢化による生産人口の減少をカバーし、事業活動レベルを維持できるモデルを創出する必要性
- ・ 高齢者や中山間地域の移動の課題、医療や福祉の課題等の地域課題の解決を図る必要性

策定した計画を基に、地域経済の発展や地域課題解決を図るためには、行政だけではなく、仙北市全体が一体となって取り組む必要があり、それが D X 推進ラボの応募に至った背景である。

3 地域 D X 推進ラボについて

地域の多様な機関（地域の公的機関、大学・各種学校、研究機関、企業・事業者、事業者団体、投資家、ベンチャーファンド、金融機関、市民団体等）が連携し、一体となって、地域の経済発展とウェルビーイング（幸福）の向上を目指すべく、経産省と I P A が取組を支援する制度である。

4 仙北市 D X 推進ラボの事業計画概要

行政のデジタル化による業務改革の推進、事業者の取組による地域経済の発展、市民が抱える課題解決によるウェルビーイングの向上、これらを複合的に実施することにより、幸福度全国ナンバーワンのまちの実現を目指すもの。

5 市民満足度の調査と今後について

市民が何を求め、どのような施策や事業を実施することが幸福度の向上につながるのかを分析するため、そのツールのひとつとして、市民意識調査を活用しており、施策ごとの満足度や重要度と幸福度をクロス集計し、その内容を次年度以降の施策にフィードバックすることを目的としている。また、クロス集計した結果を踏まえ、総合計画を作り直す作業を行っており、そのベースとして、各部局ごとに、幸福度ナンバーワンにする上での課題や懸案事項を挙げてもらい、その課題を解決するためにこういう施策をするということをその下にぶら下げ、その施策をするためにこういった事業をするということをさらにぶら下げるような形で、事業ごとにK P I（重要業績評価指標）を設定して、施策のほうには最終目標としてK G I（重要目標達成指標）を設定するというような形で、何をすればどうなるかということが分かりやすい計画によって、それぞれの課題を解決して、最後の目標である幸福度ナンバーワンを目指していく。

6 その他

- (1) D Xの取組：角館オンデマンド交通「よぶのる角館」、仙北市旅先納税「せんぼく e 街ギフト」、サテライトオフィスの誘致、防災情報プラットフォームを用いたスマートシティ実証実験、医療D X拠点化事業（医療M a a s 事業、P H R（パーソナルヘルスレコード：デジタルを活用して健康・医療・介護に関する患者の情報を統合的に収集し、一元的に保存したデータ）導入事業、介護施設等へのパワーアシストスーツや見守りサービスの導入事業）。

その他として、「無人運転バス公道実証実験」、「スマート農業実証実験」、「ドローンによる物資輸送の実証実験」など。

- (2) 次期人口ビジョン：一番初めに策定した人口ビジョンの予想よりも実際の人口が大きく下回っている。その予測が外れた理由としては、市全体として人口を予測したことが挙げられる。次の人口ビジョンでは、市を10地区に分け、地域別に人口を推計することになっているとのこと。

